

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3092100019
法人名	株式会社さくらメディカル
事業所名	グループホーム松風みはま
訪問調査日	平成 21年 7月 28日
評価確定日	平成 21年 8月 14日
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

「取り組みの事実」

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

「取り組みを期待したい項目」

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

「取り組みを期待したい内容」

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム松風みはま		
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824-1 (電 話) 0738-22-1101		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成21年7月28日	評価確定日	平成21年8月14日

【情報提供票より】平成21年7月15日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23人	常勤	15 人, 非常勤 8人, 常勤換算 11.9

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000 円	その他の経費 (月額)	円
敷 金	有 (135,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有／無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり 1200 円		

(4) 利用者の概要 (7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高総合病院 木村歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに煙樹ヶ浜の松並木が見える田園地帯にあるこのホームは、入居者を個人として尊重し安心と尊厳のある生活が送られることを日々の介護の基本としている。職員一同はゆったりとした関わりを持つことを心掛けており、入居者の話にしっかりと耳を傾けることに重点をおいて日々のケアに取り組んでいる。落ち着いた雰囲気の中で、入居者は自分の思いや意向を職員に聞いてもらいやすく自由に伸び々と1日を過ごしている。家族には毎月本人の様子を伝える「便り」を送り、また各居室に用意された個別ノートの活用で家族の不安や意見、苦情を読み取ろうとする職員の姿勢が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を運営推進会議での議題に取り上げて管理者・職員一同で話し合った。「運営推進会議の開始時間の変更」「入居者と一緒に食事を摂るための勤務体制の見直し」「車椅子利用者の災害時の避難」「更なる研修の積み重ね」など管理者・職員共に積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)
重点項目②	職員一同で自己評価に取り組んだ。日々の介護に自己評価での気づきを反映させ更に質の高いサービスにつなげて行こうとしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	メンバーは周辺地域3町の行政担当者、地域包括支援センター代表、住民代表、家族で、時々入居者の参加もあり、2ヶ月に1度開催されている。会議内容は報告が多いが、それを地域への情報開示の手立てとして活用している。会議で出された案や意見をもとに、一人ひとり写真付きの緊急連絡先をつけた一覧表を作成し、入居者の行方不明等の緊急時に備えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関の正面に苦情・ご意見箱を設置し常に家族からの意見等を受けられるようにしている。毎月、各入居者の日頃の様子を記録した「便り」に個々の写真、報告も添付して送り、家族にホームdeの様子がよくわかるように配慮している。各居室には個別ノートを用意し、家族とホームとの自由な意見交換を行い、書き込まれた内容には迅速に対応している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)
重点項目④	地域住民の交流の拠点になればとの思いから、定期的な大正琴演奏会や毎月の陶芸教室には地域住民に参加を呼びかけ、今年は夕涼み会も予定している。地元中学生の職場体験の受け入れや近隣の保育所の園児との交流は入居者の楽しみにもなっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えてい(サービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が作成した「個人として尊重し、安全と尊厳のある生活」「地域社会の一員として生活できるよう支援」等、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念があるが、事業所独自の理念はない。	○	事業所を開設してから3年であり、地域で生活しながら入居者の状況も変わっている経緯を踏まえ、法人の理念をもとに入居者、職員の思いを込めた当ホーム独自の理念を作り上げることが期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の正面に理念が掲げられ、管理者と職員は理念を理解し実践してゆくことを事業所としての介護目標としている。朝のミーティングでの確認、会議において議題として取り上げるなど、共有しながら全職員で日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の交流の拠点となれるように、定期的な大正琴演奏会や毎月の陶芸教室への参加を地域住民に呼びかけ、今年は夕涼み会も予定している。地元中学生の職場体験の受け入れや近隣の保育所の園児との交流も行われており、それを楽しみにしている入居者も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を管理者・職員一同で話し合い「運営推進会議の開始時間の変更」「利用者と一緒に食事をとるための勤務体制の見直し」「車椅子利用者の災害時の避難」等、具体的な改善につなげている。今年の自己評価も全職員で取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行政担当者、住民代表、入居者家族らが参加し2ヶ月に1度開催している。前回評価後、開催時間を夜から昼に変更してからは本人が参加することもある。さらに参加者にはホームの見学で理解を深めてもらっている。会議でだされた行方不明捜索の為の案から一人ひとり写真付きの緊急連絡先一覧表を作成した。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当職員とは、気軽に相談できる関係が築かれている。入居者が夜、ホームを出て行ってしまう困難な事例を相談した時は、担当者が数々の助言ばかりでなく、実際に何度も夜に足を運んで様子を見に来てくれた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「松風みはま便り」として個々の入居者の日々の様子の記録に写真を添付、また金銭管理の記録も併せて送付している。職員の異動があった場合は、お知らせ文も送り、個々に合わせたきめ細やかな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の正面に苦情・ご意見箱を設置しているが、意見、苦情は少ない。食事会のある月には、参加した家族から話を聞くようにしている。今年度から家族とホームとの自由な意見交換を行うため各居室に個別ノートを用意活用されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際は、入居者に混乱を与えないように配慮している。動揺の見られる入居者に対しては、職員がいつも以上にゆったりと時間を割いて思いを聞く姿勢を持ち、入居者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は年間計画を立て、月1回の内部研修には、ロールプレイや、今ここで実際に問題となっている事柄を取り上げ学習を積み重ねている。外部研修も資金援助を行い、また働きながら資格取得が出来るように人員を多く確保するなど配慮に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、同業者との研修時などで、意見・情報交換を行い交流を図っている。他法人の施設へも参加を呼びかけ、今年度は理学療法士を交えた学習会を開催する予定で、更なるサービスの質の向上と交流に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族とは、本人について十分な話し合いを持つようにしている。初めは家族の送迎で日中ホームで過ごし、夜は自宅で過ごす生活から、本人と職員や他の入居者の方々と馴染みの関係になるまで、ゆっくりと時間をかけ対応している。認知症対応のデイサービスが利用でき、雰囲気に馴染んでからの入居もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から料理の仕方をはじめ、生活の智慧や諺など、一つひとつの話題の中から多くのことを教えてもらい、それが楽しみとなっており、共に支えあう関係が築かれている。良い効果があると聞いた足浴を実施、入居者の嬉しい顔を見て職員も喜びを共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の様子や、本人の言葉を大切に聞きながら、ゆっくりと関わりを持ちコミュニケーションを通じて一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。入所時不安定だった意思疎通の困難な入居者に対しても、思いに耳を傾け本人本位の関わりを持つことで本人の落ち着きを取り戻している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者・職員は、入居者一人ひとりの顔つきや様子を見ながら、家族の意見も取り入れ、必要に応じて主治医や薬剤師とも相談しながら、職員一同で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初は、1ヶ月に1回、それ以降は3ヶ月に1回、本人の変化や意向に即したプランの見直しを、家族や職員の情報や意見も加え作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大正琴や陶芸教室などの催物には地域住民の参加を呼びかけている。入居者が住んでいた地区での老人会へのお誘いがあれば職員が送迎して参加できるようにしている。また、入居者が入院した時は、遠方の家族が本人の居室に泊まる事が出来るように配慮し、柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。家族が診察に連れて行けない時は、通院の送迎のみならず同行介助し日頃の様子を医師に伝え適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の情報シートに終末期の意向の記載箇所があるが、ほとんどの家族は未記入のため、お互いに信頼関係が築かれた時点で改めて「看取りを行う」というホームの方針を示し、家族と話し合いの場を持ち全員で方針を共有しながらその時々柔軟な対応に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、お互いに気がついた所は注意し合ったりしてスキルアップを図っている。個人ファイル等は各ユニットの事務所内の鍵のかかる棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者とゆっくり関わりを持ち、コミュニケーションを通じ入居者の思いに添えるように心がけており、その日をどのように過ごすか、一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼食は、ごはんとおかずから選べる。入居者は、料理の献立、調理、味付けも職員と共に行っている。入居者が陶芸教室で作った湯のみや茶わんを各自使い、畑で作った野菜が食卓に並ぶこともある。勤務体制を見直し、職員と一緒に食事を味わい楽しめるような支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の「整体に行くので午前中に入浴したい」という希望にも対応できるように、毎日、いつでも自由に入浴する事ができる。入居者が入浴することを楽しみにできるように、職員は一人ひとりの希望を十分に把握し見守っている。今年から始めた足浴も入居者から好評を得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	陶芸教室での作品作り、洋裁や洗濯、食事作り、月2回の買い物、敷地内の畑での野菜作りやそれを収穫し食卓に並んだ時の入居者の喜びを職員も共有し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。入居者が自由に八幡さま参りにも出掛けられるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が三々五々職員と共にホーム周辺を各々のペースで散歩している姿が見受けられた。散歩の途中で、近所の人との会話を楽しんだり、時には職員とドライブに出掛けたりする。朝から美容院へ行くという入居者には、同行する職員をすぐ手配し希望に添えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠しておらず、入居者は自由に出入りが出来る。運営者・職員一同は鍵をかけることの弊害を十分承知しており、玄関のチャイムで入居者の出入りを把握するなどそのための見守りに十分力を入れ安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も交え、年2回の消防との火災時の避難訓練や毎月の自主的な訓練を積み重ねている。水害等の災害時でも各関係機関との協力体制が出来ているが、いずれの場合も、地域住民の参加までには至っていない。	○	前回の評価にもあったが、職員だけの誘導や避難の限界も踏まえ、事業所と地域住民の協力体制を築き上げ、地域住民も参加しての災害訓練を期待する。更に備蓄の確保も望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、個人別に記録を取り、申し送り等をして職員一同が情報を把握し十分な確保に努めている。食事を残した入居者には、夜、おにぎりやパンを用意し、自由に食べてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には、木製の大きなテーブルとしっかりしたイスがあり季節感漂う金魚鉢が置かれている。居間には、一段高くなった畳の間があり各々が自由にくつろげる場となっている。窓からは、田園地帯が臨め、季節の移ろいが感じられる。各室のドアには顔写真付きの名札が張られている。	○	入居者の今までの暮らしの継続、家庭の延長であるためには、共用空間に「一人ひとりの入居者の心地よい居場所があるか」「各室のドアに貼ってある写真付きの名札はどうなのか」などについて今一度問い直し、運営者、管理者、職員の価値感だけでなく、入居者や家族の思いを考慮しながらつくり上げていくことを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房器具とカーテン以外は入居者の使いなれた家具や寝具が置かれている。孫の写真をたくさん貼っている入居者、自分の書いた字を額に入れ飾っている入居者など、それぞれが居心地良く過ごせるように支援している。		